

はなく、「自分ができるようになったら登れる」という感じをつかんでほしいんです。

実際に怪我をしてみないと、どこから先が危ないかわかりません。全部大人が先回りして止めていたら、子どもが自分で「ここから先は危ない」と感じる経験を剥奪することになってしまいます。最終的には自分の身は自分で守らないといけないので、大げにならない程度でたくさん経験してほしいと思います。

行事などはいかがでしょう？

冬の発表会では楽器の演奏をします。先生が曲から楽器から練習まで全部決めてやらせても、子どもは能力が高いのでできるでしょう。しかし、それで子どもは楽しいでしょうか。

ではどうしているかというと、まず色いろな楽器を子ども達が手を触れられる場所に置いておきます。すると興味を持った子が楽器をいじり始めます。最初はめちゃくちゃでものすごくうるさいです（笑）。しばらくしてから簡単な楽譜を見せて、この通りに叩くとリズムができるよとか、木琴でここを順番に叩くとこんな音になるよ、ということを伝えるんですね。そうすると、どんどん弾けるようになるんです。弾けるようになると楽しくなり、さらに少しずつ他の楽器が合ってくるようになってもっと面白くなる。楽しくてやっている子は本当に楽しそうなので、始めは興味がなかった子も集まってくる。そして最終的に保護者の前で発表するという形です。

子どもが自分で面白いなと思って取り組むきっかけや環境を作ったり、子どもが飛びついてくるような仕掛けをしてみたいです。

るのが、私達保育者の仕事なのではないかと思えます。私達が育ってきた環境が、先生の指示を受けその通りにするいうものだったので、そういう刷り込みもありますし、先生方も「ちゃんとやっている」感はあると思いますが、黒子に徹した方が「子ども主体」になると思っています。できるだけそんな風に仕掛けを作って、子ども達が喜んで一生懸命遊んだら嬉しいねという話はしています。

お寺ならではの教育はありますか？

教育というわけではありませんが、毎朝仏さまにお参りをしています。今は子どもの世界も情報過多なので、少し心を落ち着ける時間が取れたら良いなと思っています。今はその意味が分からなくても、心を見つめることを経験し、こうすれば心が落ち着いて静かにできるんだということを、大人になってからでも思い出してくれたら嬉しいです。

また、お寺には竹伐り会式や節分の追儺式など色いろな行事があるので、お稚児さんとして参加してもらったりしています。

ここで育った子ども達に将来どんな人になってもらいたいですか？

鞍馬山保育園は「みんなのいのち輝く」という理念で、園に関わる人みんなが生きて自分らしく過ごせる場でありたいと思っています。一人ひとりがそれぞれに生き生きできる状況があるといいと思いますし、色いろな人がいるからいいんだ、みんな一緒にじゃないからいいんだということを知ってほしい。その違う人達が、それぞれの良い所を活かして、みんなの良いもの、良い社会を作っていくのではないかと思います。

います。自分も大切にしたいし、人も大切にできて、お互い意見を交わし合って認めながら、それぞれ自分の得意なことをやって、誰かの役に立つ人になってほしい。今、世界が逆行しているようでとても悲しいのです。だからこそ、小さい子ども達が、みんなが認め合って活かし合える社会を作ってくれたいと思います。

今後の展望を教えてください。

究極は、子ども達が自分達で保育園を回していけるといいなと思っています。先生が今日何をするかを決めて子ども達を動か

すのではなく、子ども達が相談して決めて、行動していくといった具合です。意見が分かれた時にどう解決していくか、どう一つにまとめていくかということを経験してほしい。きっとその方が子どもも面白いと思います。

鞍馬山保育園といったら？

「楽しい」です。みんなが楽しい場所でありたいと思います。面白おかしいだけの楽しいではなく、お互いに認め合ったり、自ら物事を達成したり、そういう楽しさも感じられる場所でありたいと思います。



体をたくさん使って、
経験して、自力で
乗り越える力をつける！



MIRAKUU編集部後記

自然の中で、子どもを尊重し、子どもがやりたいことを自分で決める。まさに子ども主体の保育をずっと昔から実践されている保育園で感動しました。